

## Ikuo Hanawa

1960年、茨城県生まれ。全日本オフロードレース選手権に高校3年生でレースデビュー。その後国内オフロードレースで破竹の勢いで活躍し、1991年からアメリカン・オフロードレースBaja1000に参戦。いきなり日本人初完走を果たした。さらに2002年にはクラス優勝（日本人初）し、通算20回以上ハハに挑み続け、'16年にもクラス7で3位完走を果たす。また、フレームから車両製作も行なうマシンビルダーの顔も持つ。



写真上のホイールは、実は市販のWORK CRAG T-GRABICではない。その原型となる「WORK SPECIAL FORGED BEADLOCK MODEL "CONCEPT T-GRABIC"」なのだ。名前が示す通り、鍛造製のビードロックホイールで、レースホイールに求められる軽さと剛性を高いレベルで実現。さらにビードリングまでも鍛造製となり、オフロード走行時の強度についても最高峰の性能を誇る。スティックな見た目からも、タフさが伝わる。

## オフロードを走る四駆ホイールには軽さ・剛性以外にタフさが必要です

## SPECIAL INTERVIEW

## 埜 郁夫 選手

# THE Bottoms!

「日本人は勝てない」と言われるモータースポーツ競技だが、その常識を覆して「世界一過酷なデザートレース、Baja1000」に挑み続け、確実な戦績を残してきたプロ・オフロードレーサーの「埜 郁夫」選手。そんな埜選手は、彼をサポートするメーカー「WORK」のホイールを履き、2018年夏にはアジアクロスカントリーラリーに出場している。今回は WORK から新たなシグネチャーモデルが誕生したことを記念し、レースマシンが生み出される秘密基地・Factory HANAWA にて、オフロードレースの醍醐味やマシン製作における重要なポイント、足もとを支えるホイールの重要性について、話を伺った！  
単なるレーサーではなく、各参戦マシンを自分で製作するビルダー目線からも、実に興味深い話が飛び出して、取材現場は熱い雰囲気に包まれたのであった…



### WORK SPECIAL FORGED BEADLOCK MODEL "CONCEPT T-GRABIC"



1000マイル(約1600km)を不眠不休で走る、世界最長のノンストップ「弾丸」オフロードレースであるBaja(バハ)1000に挑み続ける埜選手。2015年からは、ジオランダータイヤにWORK製のSPECIAL FORGED BEADLOCK MODEL "CONCEPT T-GRABIC"ホイールを組み合わせて参戦。耐久性を重視するあまり、重くなってしまいがちな海外製ホイールですら破損すると言われるレースにおいて、埜選手が履くホイールはずっと無傷で生還中。鍛造のタフさと軽さの両面を実現。

クラッグ ティーグラビック

### CRAG T-GRABIC



かつて埜選手は、シグネチャーモデルから市販された1ピースホイールのWORK CRAG T-GRABICについて、このように評価していた。「ビードロック部分は原型を模したのですが、その再現度がスコシ、価格もリーズナブル。それでもスベックは、一般ユースではオーバークオリティと言えるほどですよ。その言葉を実証するためだろうか。TEAM GEOLANDARとして参戦したアジアクロスカントリーラリー2018のハイラックスREVOの足もとには市販のT-GRABICを選んだ。さて、レース後のホイールの状況は如何に？



オランダM/T GOO3を履くと決めていました。次にホイールをどうしようか？悩みました。埜選手は、2015年のBaja1000参戦からWORK製ホイールを履いてきたが、それについてはどう思うのだろうか？  
埜：Baja1000ってレースは、とにかくホイールが壊れて市販ホイールでは厳しい。それにタイヤがパンクしても走らなければならぬ状況もあつたりするから、ビードロックホイールがベスト！それでWORKさんに相談して一緒にチャレンジすることになったのがキッカですね。そして誕生したのが、市販のCRAG T-GRABIC(以下、Tグラビック)の原型となる、ビードリングまで鍛造製のWORKスペースシャワーワンオフホイールです。

### Special Thanks



<https://www.work-wheels.co.jp>

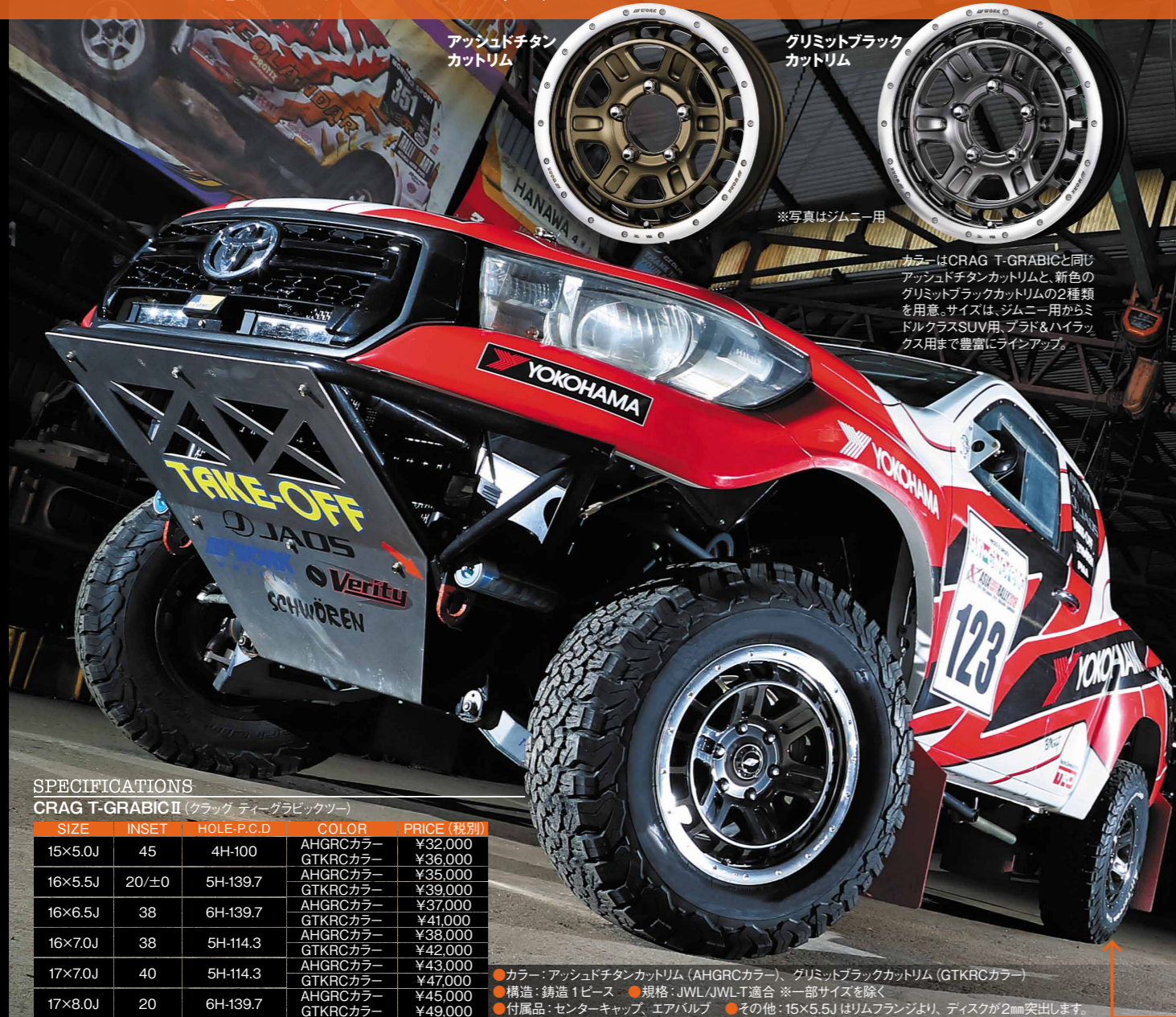
自ら製作したマシンで世界一過酷なレースへ

日本が誇るプロ・オフロードレーサーとして、さまざまな快挙を成し遂げている埜 郁夫選手。マシンを自分で造ることもお馴染みで、レース参戦前はマシンビルダーとしての悩みも多いという。そう、我々が自分の愛車をカスタムする上で悩ましいパーツ選びは、レースのマシン造りでも重要な。愛車のカスタムを考える第一歩として、タイヤ&ホイールの交換を頭に浮かべる方は多いだろう。そう、スタイルアップもパフォーマンスアップも足もとから。では実際、ホイールの履き替えにはどんなメリットがあるかをここでは考えてみたい。ホイールは単なるドレスアップアイテムじゃない。実は走りを左右するものなのだ。

埜：2018年夏のアジアクロスカントリーラリー(以下AXCR)に出場すると決めた時、ラリーマシンのベースに、ハイラックスREVO(タイ仕様のトヨタ・ハイラックスの名称)を選びました。このクルマは、見た目以上に重い。それゆえ、造りがしっかりしているのも確かで、ランクル100/200と比べても遜色のない剛性がありますね。その長所を活かしつつ、どう軽くするかがマシンづくりの課題でした。結局はガソリンエンジン換装とミッション変更で多少は軽くして、タイヤは耐久テストも兼ねて市販のジ



# レースフィールドからの完全なるフィードバックで レース直系ホイールが大いなるマイナーチェンジ!



アッシュドチタン  
カットリム

グリミットブラック  
カットリム

※写真はジムニー用

カラーはCRAG T-GRABICと同じアッシュドチタンカットリムと、新色のグリミットブラックカットリムの2種類を用意。サイズは、ジムニー用からミドルクラスSUV用、プラド&ハイラックス用まで豊富にラインアップ。

## SPECIFICATIONS

CRAG T-GRABIC II (クラッグ ティーグラビックツー)

SIZE	INSET	HOLE-P.C.D	COLOR	PRICE (税別)
15x5.0J	45	4H-100	AHGRCカラー	¥32,000
			GTKRCカラー	¥36,000
16x5.5J	20/±0	5H-139.7	AHGRCカラー	¥35,000
			GTKRCカラー	¥39,000
16x6.5J	38	6H-139.7	AHGRCカラー	¥37,000
			GTKRCカラー	¥41,000
16x7.0J	38	5H-114.3	AHGRCカラー	¥38,000
			GTKRCカラー	¥42,000
17x7.0J	40	5H-114.3	AHGRCカラー	¥43,000
			GTKRCカラー	¥47,000
17x8.0J	20	6H-139.7	AHGRCカラー	¥45,000
			GTKRCカラー	¥49,000

●カラー：アッシュドチタンカットリム (AHGRCカラー)、グリミットブラックカットリム (GTKRCカラー)  
●構造：鋳造1ピース ●規格：JWL/JWL-T適合 ※一部サイズを除く  
●付属品：センターキャップ、エアバルブ ●その他：15x5.5Jはリムフランジより、ディスクが2mm突出します。

## 「より強靱に、クラッグはすべてを越えてゆく！」

クラッグ ティーグラビックツー

### CRAG T-GRABIC II

CRAG T-GRABIC 同様…むしろ、より躍動感と立体感のあるフォルムで、別体、と見間違えほどの精巧なつくりのビードロックリング形態を特徴とするCRAG T-GRABIC II。特に注目目は新設計のアウトサイドフランジ形状で、さらなる強度と剛性のフランジを実現。また、アウトサイドスポークのシェイプ化で外輪の開口部はかなり広くなり、軽量化と細かな石などが詰まらないように配慮。特徴的なインサイドスポークの形状は、やはり開口部を広くしてディンプルを設定し、耐久性は高く、より軽量化を図りながらも高剛性を実現。すべてがブラッシュアップされた。

CRAG T-GRABICの「1」にあたるホイールを履いてAXCR2018に参戦したハイラックスREVOに、WORK渾身の最新モデル「CRAG T-GRABIC2」をマッチング(LT265/70R17)。細部にまでこだわりの抜いたホイールには本物のオーラが漂っている。



ワンオフだけでなく、市販ホイールでも挑戦

「これが逆にAXCRには向かないんです。スベックは相当高いけれど、それが正直オーバークオリティになってしまっ。AXCRはギャップはそれなりですが延々と続きます。ボクシングに例えるとライト級のジャブの打ち合いです。だから足もとにトラブルが起る可能性は十分ある。そしてもし起こった時、ビードロックホイールをタイヤカンボジアの町のタイヤ屋では扱ってもらえない。だから、タイヤだけでなくホイールも市販品で行こう。慣れ親しんだカタチでもあるし、Tグラビックをホイールに選びました。」

そしていよいよ本番。AXCR2018というラリーにおいて、



「塙選手が駆るTEAM GEOLANDARのハイラックスREVOは終始マシントラブルに悩まされた。特にシリアスな状況は4日目。自然の驚異が猛烈と襲い掛かり、四輪クラス全26台中10台しか規定時間内の完走が叶わなかった。当の塙選手も…」

「塙、タイヤが隠れる程の水深のウォーターベッドを延々と突き進みグチャグチャの深いマッドジャングルロードも快調に飛ばしていましたが、追いついた前走車が突然スタック！ 瞬時に右にかわすとそこには…完全に乗り上げてスタックしてしまいました。何度もワインチで引いてもうって1mmも動かず、結局は地元の青年に手伝ってもらい、夜半まで手掘りで脱出することになってしまった。」

AXCRの洗礼を受け、この時点で上位浮上は難しくなった。そんなと目標は、完走のみ。マシンはトラブル続きだったが、今回履いた市販品の足もとであるジオランダーM/T G003とWORKのTグラビックは異なる状況にも耐え抜いた。

「塙、先ほど話したような、ウォーターベッド走行時は一切その中が見えないんです。だから岩や小山が隠れても分からない。そんな中、これはさすがにタイヤとホイールがもげたかと、脱臼したかと思うぐらいの衝撃を受けるシーンもあって…それでもTグラビックは市販ホイールなのに割れない。どこかほほ無傷でした。オフロードに限らず、レース

シーンでありがちなスローバンクチャー(タイヤの空気が少しずつ抜けていくトラブル)もなく、激しいラリーの全日程を駆け抜けた。塙、もちろん、ホイールは単に強度に振ったワケじゃないこともラリー中に感じました。ちゃんとした形状を採用しているから、剛性もしっかりあるんです。例えば…レース中に市販品だからと思って「ほちほち曲がりますか?」と感じるような状況でも実際は正確に動いて、決してミスらない。

「ちなみにすでに気付いている方もいるかもしれないが、2015年にBaja1000に参戦するため塙選手自身が造りあげたマシン「Earth Runner (アースランナー)」の足もとには、2016年からインサイドスポークが10本から6本スポークへとバージョンアップしていた(右ページ・オレンジのビードロックホイールの写真参照)。デザインは、Tグラビックの外輪部と内輪部を組み合わせた2重車型のデザインに違いはないが、内輪部分のホール数は少なく、6スポーク&6ホールで構成されているのだ。

そう、実はこれがWORK渾身の新作・泥系ホイール「CRAG T-GRABIC2 (クラッグ・ティグラビックツー)」誕生のキッカケとなったモデル。このバージョン2も、当然塙選手が履くスペシャルワンオフホイールとして、こうあって欲しいという希望を基にカタチづくられたものだ。塙、サーキットのレースと違っ

て、長距離・長時間をサービスマシにぶっ通しで走るオフロードレースでは、どんなに良いタイヤでもハイストする危険性が常にあります。そうした時、タイヤ交換を自分でやることも多い。だからこそ、握りやすいホイールが要求される。自分でスタッドレスタイヤに履き替える方はみんな分かりますよね? 握りやすい! 交換しやすいってことです。また、外周の開口部が広いと石が噛むのを減らせるし、穴合わせがしやすい。ラグナットが見えないと、競技ではストレスを感じる! と言ってしまっても良いくらいです。だから、この進化・改良は実に喜ばしいこと。皆さんにも、この機能美をぜひ感じ取ってもらいたいですね。



THE Bottoms!  
SPECIAL INTERVIEW



# CRAG T-GRABIC

狭義タイヤ●BF Goodrich All-Terrain T/A KO2 (LT235/70R16)  
狭義ホイール●クラック ティアグラビック (16×7.0J+38)



DELICA D:5

●狭義カラーマットカーテン / カットリム  
¥38,000/本

CRAG T-GRABICは、リムにクラックタイプボルトとビードロッキングをデザインしながら、ディスクの面を広い側面と広い側面開口部を繋ぎ、二重に響く響きのような絶妙な「ダブルボルトデザイン」を採用、ストロークのないオフローダーと賞も無い造形は、強度に配慮しながら軽量化と剛性を確保して、立体的に表現されている。



WORK製CRAG  
NEWモデルの詳細  
はコチラへ



## CRAGを超えるのはCRAGだけだ! 進化型最新作・特製限定品にも注目

4 WD-SUVオーナーの間で対馬の人気を誇るCRAG T-GRABICだが、その進化版ともいえるCRAG T-GRABIC2が新たにデビュー。もちろんデリカD:5限定サイズ(16×7.0J+38/5H+13)も用意。より剛性を追求した立体的な造形に「ダブルボルト」も追加。冬場問題への対応も視野についたビードロッキング形態、アウアサイドスポークの全面シェイプ化やインサイドスポークの形状など、すべてをクラッシュアップ。

## CRAG T-GRABIC2



T-GRABICの原型となる、鍛造レースのWORKスウェルモータープロテクトカーテンを強くイメージさせるような、鮮やかなオレンジのビードロッキング形態を採用したT-GRABIC SUNRISE Edition。

その名の通り、サンライズをイメージさせるようなアウアサイドスポークのオレンジのカラーリングを採用。また、限定モデルならではの、限定カラーを備えているアウアサイドスポークの全面シェイプ化やインサイドスポークの形状など、すべてをクラッシュアップ。

●クラック T-GRABIC2 サンライズ Edition  
カラー:ブラック / オレンジ / アウアサイド  
¥42,000/本(16×7.0J+38)

## CRAG T-GRABIC SUNRISE Edition

ハメ込みマッチング

車輪  
DELICA D:5  
予想



## レース直系、大陸系最強の機能美を 2つの歯車型ディスクで表現



クラック ティアグラビック  
フロント/リア  
¥38,000/本  
(16×7.0J+38)

車輪  
DELICA D:5  
実装

B 99(G)N 1000 アリアXCVリとい、った昔ながらのオフロードレースの歴史を踏襲した、プロ・オフロードレース選手、絶大な選手監督の元、WORK製でのデリカD:5を、実装された「CONCEPT T-GRABIC」に、2重に響く響きのような絶妙な「ダブルボルトデザイン」を採用、ストロークのないオフローダーと賞も無い造形は、強度に配慮しながら軽量化と剛性を確保して、立体的に表現されている。

市販品は鍛造レース構造ながら、リムはまったく別物のようなビードロッキングとそれを止める「ダブルボルト」の演出を再現、タフな力強いイメージを演出。また、インサイドスポークの全面シェイプ化やインサイドスポークの形状など、すべてをクラッシュアップ。

# CRAG T-GRABIC

## CRAG T-GRABIC 狭義限定ホイール●クラック ティアグラビック (16×7.0J+38/5H-114.3)

※タイヤはノーマル215/70R16を想定

狭義限定カラー  
マットカーテン / カットリム  
¥38,000/本



ハメ込みマッチング